

**平成二十年
春彼岸号**

発行所
天台宗東京教区
〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481
寺本亮洞

東京天台



多くの温かい志を頂いた

● 東京教区托鉢
昨年暮れ、浅草寺において歳末助け合い托鉢が行われた。この托鉢は毎年十二月の初旬に行われ、参詣する信者をはじめ訪れた観光客からも多くの淨財を集めている。

● 東京教区托鉢
托鉢とは修行を行う僧侶に対し、一般の信者達がめいめい心ばかりの食べ物を鉢に入れる。この行為は授ける側と受ける側のお互いの修行なのである。施す側は自ら貴重な食べ物を布施するのだ。出家の僧にとつては行の価値を知り、在家人々にとつては仏教への喜捨の精神を培うこと。これが托鉢の原点なのである。

**たすけあいの心
私にできること**

いつもどんな事を感じますか？
「毎回感じることは、教育の大切さかな。『有難う。頑張って下さい』と声を掛けられると、まだまだこの国も捨てたものじや無い。自分の子もこういう風に育てたいし又育つて欲しいと思う。だからこそ、親や家庭による仏教や道徳に対する教育というものをすごく大事なことだと感じる」



雨の中行われた仏教青年会の青山托鉢

● ある男性の話
浅草寺での托鉢に、八回連続で参加し続ける都内在住の檀信徒、鴨志田茂さんに話を聞いてみた。

きつかけは何ですか？
「たまたま托鉢だったんです」近所の住職との日頃からの付き合いの中で仏教そしてそ

とは限らない。怪訝な表情をし、通り過ぎるだけの人もいる。様々な人々の行きかう場所で一人の托鉢僧として静かに立ち続けることは、それだけでもひとつの修行であるだろう。

● 「誰かの為」に
ボランティアから始まる仏教「歳末助け合い」や「義援金」等と掲げたボランテ

イアの要素が入ると、自然と誰もが行える行となるのだろう。鴨志田さんは、「一人は難しいけど、僧侶の皆さんと一緒に一緒なら出来る。終わつたあとのある清々しさを他の方々にも味わって欲しい」、さらに、「来年こそは般若心経を覚えたい」と語った。

托鉢に限らず何らかのボランティア活動に参加することで、「誰かの為」になる喜びを知る。これこそ伝教大師の唱える利他的精神そのものであろうし、こんな活動を好機に仏教への関心が高まることもあるだろう。

生活に生きる仏教

菩提の種 ■

「春彼岸 菩提の種をまく 日かな」という句があります。

春は種まきの季節、美しい花や豊かな実りを願い、種をまく時期です。同じように、私たちが「菩提の種」をまくのが春彼岸なのです。

でも、「菩提の種」とは何でしょうか。菩提とは、お悟りのことだといいます。お釈迦様や高僧方が到達した境地です。

そう聞くと、とても自分には縁の無い世界のような気がします。慌しく過ぎる日常生活は、悩みや苦しみばかりで、悟りの境地なんて、と思つてしまします。

しかし、そんな私たちにも菩提の種がまかれていて、と経典には説かれています。仏なる種がすでに私たちにあります。ただそれに気づかず、種

は固い殻におおわれて眠っているだけだというのです。

一九五一年に植物学者の大賀一郎博士が、検見川の遺跡から発見された蓮の種を発芽させ、翌年に見事に大輪の花を咲かせた話は有名です。「世界最古の花、生命の復活」として全世界に報道され、その蓮は「大賀蓮」と名付けられました。

その種は、今から約二千年前に弥生時代後期のものと推定されています。大賀博士が手を合わせたとき、自分が持つている菩提の種に気づき、発芽させ、そして素晴らしい花を咲かせたいと願う。春彼岸が、そのきっかけになればと思います。

でも、芽が出ても途中で枯れてしまつたら……。

大丈夫、菩提の種はいっぱいあなたの中に眠っていますから。

実は、大賀博士には、古代蓮

の発芽に成功したもの、五十日で枯らしてしまつたといふ苦い経験がありました。その経験を踏まえて、再度試みた末に得られた成果だったのです。

菩提の種をまく、ということとは、私たちの中にまかれている菩提の種に気が付いて、眠つている種を発芽させること、と言い換えてよいでしょう。

思いやりのこころ、反省するこころ、穏やかなこころ、素直なこころ、誰もがそうしたところを持つてははずです。それらが菩提の種です。

菩提寺を訪ねたり、墓前で手を合わせたとき、自分が持つている菩提の種に気づき、発芽させ、そして素晴らしい花を咲かせたいと願う。春彼岸が、そのきっかけになればと思います。

でも、芽が出ても途中で枯れてしまつたら……。

大丈夫、菩提の種はいっぱいあなたの中に眠っていますから。

毎年暮に「今年の漢字」が発表される。昨年は「偽」の一文字であった。その意味は文字通り、いつわる・ごまかす・うそを言うなど、良い意味は皆無だ。

食品業界の偽装や改ざん問題が、始終報道された昨年だったが、諸悪の根元は消費者への安全を軽視し、単に金儲けという欲に駆られた人々の「偽りの心」ではなかろうか。数百年もの歴史も実績も信用も、瞬く間に失つた例もあった。

伝教大師の「己」を忘れて他を利する精神を、まるで「他を忘れて己を利する」と正反対にしてしまった。

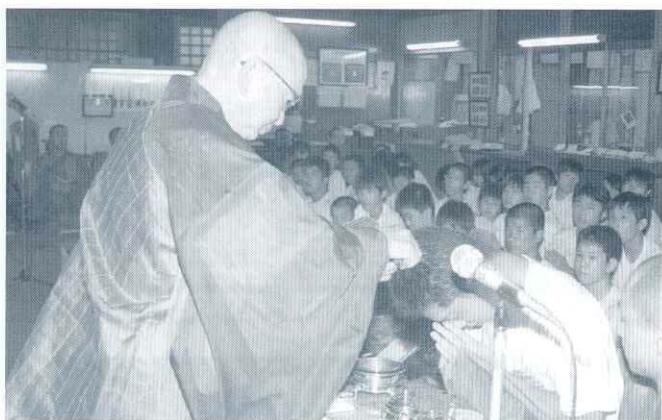
先日、様々な社訓を紹介する番組があつた。その中で某社の社訓は「安全第一、営業第二」とあつた。「安全第一」とは一見どこでも掲げている気がするが、当たり前すぎて思わず怠つてしまうところを、「営業第二」つまり利益は「の次ののだ」と敢えて書く事により、第



きるものだと教えている。欲を無くすのではなく、その欲を少しでも人の為になる様にと方向を転換させることが出来たら「偽る」という様な問題も未然に防げただろう。

又、そうした心運びの出来る人こそが、「偽りのない心」の持ち主になれるのではないかだろうか。

私利私欲に走らない、そんな欲であれば、いくらかいてもいい。



「お授戒」を受ける参加者

天台宗では、毎年八月三日から二泊三日の日程で「天台青少年比叡山の集い」を行っています。この行事は、全国から参集した約二百名の中学生が、世

界遺産にも指定された総本山延暦寺という特殊な環境での研修を通じ、規律や合掌（感謝の心）を通じて、新たな友情を育む事の出来る行事です。

研修は、仏弟子となつて、無くてはならない人間になることを誓う「お授戒」比叡山の自然と歴史を肌で感じ、「諸堂巡拝」、人々の幸せと、世界平和実現を願う「平和の祈りの集い」、育まれた友情をより一層深める「キャンプファイヤー」と、様々です。こ

の他に毎日の勤行、座禅・食事・入浴に至るまで全ての場面で、規律と合

「天台青少年比叡山の集い」 参加してみませんか？

掌の心を指針として指導されます。

初日、不安一杯で比叡山に登つてくる子供達は、昨今の学校教育とは違う、修行道場

友の如く和み、共に研修を乗り越え、修了式では別れを惜しみ涙を流しながら山を後にします。

しかし子供達は、厳しい環境だからこそ、周りの友達との調和や協力を学習し、いち早くその環境に順応しようとします。

こうした経験は、多感な年代の中学生に、何かしらの良い糧と成り得るのです。この研修は、中学生であればどなたでも無料で参加出来ます。

お申込み、ご質問等は東京教区宗務所、又は、菩提寺までご連絡下さい。



キャンプファイヤーに3日間の思い出が…

第39回

一隅を照らす運動 [東京大会]

平成20年6月7日(土)

午後1時開会《九段会館大ホール》

入場無料

法要

導師 輪王寺門跡 神田秀順大僧正

天台宗東京教区寺院
天台聲明音律研究会
天台雅楽会

講演

白井 のり子 氏

《演題》

命って素晴らしい
(今を生きる)

●プロフィール

1962年1月、熊本県にて両腕を失ったサリドマイド児として生まれる。映画「典子は、今」に主演し一躍時の人。2006年に熊本市役所を退職後、事務所「スマイルビー」を設立し講演活動をスタート。





壽福寺本堂

東横線中目黒駅より山手通りを西へ向かい、上目黒の交差点を左折すると小川坂という旧鎌倉街道にでる。その緩やかな坂を登りきり、少し歩くと右手に壽福寺の石門が見えてくる。桜並木の続く参道を奥へ進み、山門をくぐると漸く正面に壽福寺の大きな本堂が現れる。

念佛・庶民信仰の寺
上日黒 寿福寺

緑豊かな境内には板碑 鎌倉
寿福寺本堂
倉～室町にかけて造立された
平板石を用いた石塔婆の一種)
や、そつくりの延命地蔵尊が
二体並んでいることから相生^{あいしやう}地蔵尊と呼ばれる石仏が門前
に安置されている。

又、浄土系寺院にも広まる
「お十夜念佛」も行われ、古く
から上目黒の庶民信仰の中心
的役割を果たしていた寺であ
ることを今に物語っている。

信仰(庚申の夜に寝ずに健康長寿を祈念する)の本尊とされ、その多くは境内や道の辻などに立てられた石造の庚申供養塔に刻されている。しかし、この青面金剛は木造で堂内に祀られている為、都内で最も大変珍しい尊像である。

本堂内には本尊の阿弥陀如来をはじめ、不動明王や弁財天など数多くの尊像が安置されている。中でも青面金剛像は寛文三年（一六六三）に造立されたもので、悪疫を調伏するといわれてゐる。青面金剛は毎日



青面金剛



宗お靜の方が奉納された縁結
び・子宝祈願等のお靜地蔵尊
や、徳川家光公が江戸の火防
の為に遠州より移し勧請した
秋葉大権現が安置され、多数
の講社に信仰されている。又、
開山慈覚大師より代々伝わる、

松浦にて、海へ献じた薬師仏が蛸に乗つて現れ大師の元に戻る。大師が日黒の地へ來た時、諸病平癒を祈念し、松浦にて拝した蛸に乗つたお姿をそのままに薬師仏を刻まれた。

これを蛸薬師如来と称して本尊とし、広く蛸薬師と信仰されたことが通称の由来となつてゐる。普段は秘仏の為、直接拝むことは出来ないが年に一度、一月八日の初薬師護摩法要の時に御開帳されている。



成就院本堂

その他には徳川秀忠公の側室お静の方が奉納された縁結び・子宝祈願等のお静地蔵尊や、徳川家光公が江戸の火防の為に遠州より移し勧請した秋葉大権現が安置され、多数の講社に信仰されている。又、開山慈覚大師より代々伝わる、信じて願えば何でも治るといふ「おなで石秘法」等、救いを求める人々の信仰を集めてい

蛸薬師と呼ばれている。